

『英語（リスニング）』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度共通テストの「英語（リスニング）」の受験者は、本試験では451,864人で、受験者全体の約97.91%に当たる。このことは、本テストの実施そのものや、問題の質や難易度、使用される言語材料が、受験者のみならず、全国の高等学校関係者及び英語教育関係者等、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。なお、評価に当たっては、報告書（本試験）21ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

内容・範囲に関しては、「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」を網羅している。題材は受験者にとって身近な話題から社会的な問題まで幅広く、絵や図表を見て答える問題、講義を聞いて内容をまとめる問題、二者や三者による会話を聞いて内容を把握し、知識を活用したり思考力を発揮したりして答える問題等で構成されていた。

第1問A 短い発話を聞いて、内容に合う英文を選ぶ問題。時間がなくコーヒーを飲み終え店を出ることを提案する、スタジアムまで20分歩くことにいらだつ、知人にPCを持参するように連絡を依頼する、先生に渡す写真データの送付を依頼するなど、自然なコミュニケーション場面が設定されている。問3は、会話場面に不在の人物への依頼内容を含むため、状況を想像し、正確に理解する必要がある。

第1問B 短い発話を聞いて、内容に合う絵を選ぶ問題。チキンの調理の仕上がり状況、持込み可能な飲物、水を出しっぱなしのホース、キャラクター同士の位置関係がデザインされたTシャツが描写されている。日常生活で起こりうる場面が設定されている問題が多い。

第2問 日本語で示されている場面設定に基づき、短い対話を聞いて、適切なものを選ぶ問題。ポスターに掲載する資料の配置を相談する、環境プロジェクトのシンボルマークを決める、自転車の正しい駐輪場所を確認する場面が設定されている。問10は、聞き取った情報を順に加えながら、直接言及されていない選択肢を選ぶため思考力が求められる。

第3問 短い対話を聞いて、示されている質問に合致する内容を選ぶ問題。本棚を製作するために必要な資材調達を相談する、留学相談に適した人物を紹介する、携帯電話を自宅に忘れた男性が自分の感情の変化を伝える、ホテルの従業員から朝食の入手方法の提案を受ける、定期券の値上がり予定を踏まえ、月末まで既存価格で買えることを教える、同窓会の日が仕事と重なり、仕事の予定変更を話す等、実生活に基づく場面設定で、コミュニケーションの必然性にのっとり、対話が展開していた。多くの問題は、注意深く聞くことで理解できる内容であったが、問16については定期券更新の経験がない受験者にはなじみがない状況設定であったと言える。

第4問A グラフや表を描写する英文を聞いて、各図表に欠けている情報を補う問題。問18～21は、学生に人気のアルバイト調査の結果を基に、2年分のデータを示した帯グラフの各職種の割合を聞き取る問題。職種間と経年の2種類の差を表す表現の聞き取りが求められる。問22～25は、一週間の食料品配達品目を示すリストを完成させる問題で、一部の食材は曜日順に発話されず、情報を整理しながら聞き取った上で、思考力、判断力を発揮することが求められた。

第4問B 企業研修先の特徴を聞き、環境への配慮、従業員における地域住民採用割合、独自の研

修プログラム提供の有無という3条件を満たすものを選ぶ問題。発話は表にある企業の順番で行われる。テーマはインターンシップで、受験者の年代にとって関心の高い内容となっており、受験者に新しい視点を与えている。

第5問 大学の都市計画に関する講義を基に、ワークシートに沿ったノートテイキング、講義要約の情報交換、三人でのディスカッションという段階的な学習活動を想定した問題。近年問題となっている気温上昇への対策について考えさせる題材であり、SDGsを意識したものであった。活動1では、温暖化対策における緑地化推進や道路・建物設計の利点を整理しながら聞き取り、ワークシートにまとめる。活動2は、講義後、受講生同士が講義内容を要約する短い発話をし、確認し合う。活動3では、講義内容と異なる立場によるグラフを見ながらディスカッションをする。問33は、グラフの情報も統合しながら、講義や会話の内容と一致するものを類推することが求められた。全体としては、教科横断的な思考が求められる問題であった。

第6問A 二者が夜食について話す英文を聞き、それぞれの主張の要点を選ぶ問題。会話の中では、夜食を食べることで眠くなり、勉強の妨げになる可能性について議論がなされている。また、眠気を誘わず、学習の妨げにならない夜食や生活習慣の提案も含まれており、情報を整理して聞き取ることが求められる。

第6問B スマートフォンの利用時間を減らすことについての三者の議論を聞き取る問題。会話の流れの中で、考えが変容する点を理解できるかがポイントとなっている。問37は一人の発言者の意見の大意を把握し、発言内容と合致するグラフを選択する問題である。複数の意見を正確に把握し、情報を整理する力が問われている。

3 分量・程度

分量は例年どおり、大問が6問、設問が37問であった。読み上げ回数も変更はなく、第1～2問が2回、第3～6問が1回という構成であった。音声は、多様な話者による現代の標準的な英語が使用されており、全体的に聞き取りやすかった。

第1問A（各英文11語～17語・2回読み）2～3文の短い英文を聞き、概要を正しく把握して最も適切な選択肢（文）を選ぶ問題。音声は聞き取りやすく、どの問題も難易度は適切である。

第1問B（各英文8語～20語・2回読み）2文の英文を聞き、その英文が表している選択肢（絵）を選ぶ問題。全体的に取り組みやすい問題であるが、どの問題も、英文を整理しながら聞き取り、状況を正確に理解する必要がある。

第2問（各対話文27語～33語・各設問6語～7語・2回読み）本試験と同様に出題数に変更があった。特段難しい語彙はない。問11は、位置関係を表す表現を正確に聞き取る必要があり、難易度は高い。

第3問（各対話文46語～50語・1回読み）発音の特徴の異なる英語が話されている。会話文にしてはやや難しい語彙が含まれていたが、全体を通して分量及び難易度は適切である。

第4問A（問18～21＝84語・問22～25＝71語・1回読み）音声は聞き取りやすい。与えられた図表の内容を把握した上で、答えにつながる情報を正確に聞き取る力が必要となる。全体を通して、各問の難易度はバランスが取られている。

第4問B（四人の各話者＝42語～53語・1回読み）発音の特徴の異なる英語が含まれているが、聞き取る上で問題はない。表にメモを取りながら情報を整理すれば、難易度は高くない。

第5問（問27～31＝274語・問32＝30語・問33＝75語・1回読み）音声は聞き取りやすく、スピーードも標準的であるが、講義の要点を把握し内容をまとめるだけでなく、グラフから読み取れる情報を組み合わせて解く必要がある問いも含まれており、全体的に難易度は高い。

第6問A（対話文全体＝169語・1回読み）対話の流れを正確に理解する必要があるが、状況が日本語で示されていることもあり、イメージしやすく易しい問題である。

第6問B（英文全体＝209語・1回読み）本試験に続き、登場人物が四人から三人になり、発話は聞き分けがしやすくなった。問36は、各話者の意見の変容を理解する必要がある、標準的な問題であったが、0人という正答は、受験者が選びにくい選択肢であったことが推測される。

4 表 現・形 式

第1問A 短いモノログに合う英文を選ぶ設問形式。受験者になじみのある場面設定で、英語を聞きながら、「誰が」、「どこで」、「何を」するかということを理解する判断力と思考力が求められる。短い発話を最後まで注意深く聞くことにより、状況を判断し選択肢を絞り込むような良問がそろっている。

第1問B 短いモノログに合う絵を選ぶ設問形式。問8は、Tシャツの絵柄についての話で、現実にはない状況を扱っていることが他の問題とは差別化されている。受動態なのか進行形なのか聞き取った内容の理解によって柄が全く違ってくるという工夫のある問題である。

第2問 短いダイアログに合う絵を選ぶ設問形式。問11は、anywhere butの用法を理解した上で、追加される情報を整理する力が必要とされる。全体として、語彙の知識や理解にとどまらず、情報を複合的に組み合わせながら考えることが必要になる良問であった。

第3問 短いダイアログを聞き、問いに答える形式。問いと状況は事前に与えられている。幅広い話題について、場面に即した自然なコミュニケーションの表現が使われていた。

第4問A 放送文の内容に沿って情報を整理し、図表やグラフを完成する形式。問18～問21はグラフの増減に注目させる点は本試験と共通しているが、追・再試験では割合の多い項目の説明から始まることが予測できる帯グラフが出題された。人気のアルバイトの職種が4種類で100%になっているのはやや不自然であった。

第4問B 多様な英語を話す四人の説明を聞き、条件に合うものを選ぶ形式。多くの受験者にとってなじみのある発音の人物が正答になっており、グローバル化が進展する社会では発音に違った特徴を持つ英語を聞き分ける必要があり、自らも話者として活躍する可能性を示していた。

第5問 問27～問31は、講義を聞き、ワークシートに要点をまとめ、講義の内容に一致するものを選ぶ形式である。問27は、講義から聞き取れる語彙で各選択肢が構成されており、一読しただけでは正答を推測することができないような魅力的な選択肢となっている。問28～問31は例年どおり順番に情報が出てくるが、受験者が知っていそうな情報と初めて聞くような情報の両方が整理されたワークシートの形式となっている。本試験では講義部分に出てくる形容詞の語彙の言い換えがやや複雑であったが、追・再試験では講義部分の名詞の抽出になっている。問32は、新しい傾向の問題であり、聞く力を測っている点は良いが、講義全体の主旨を問う問題が、問27と問32で重複しているように見受けられた。

第6問A 二人の対話を聞き取り、対話中で話者が述べた意見を選ぶ問題と、会話の終わりに決まったことを問う問題。部分的に同意・反論したり、新たな考えを提案したりする表現がちりばめられており、受験者が使えるようになってほしい自然なコミュニケーション表現の良い例を示していた。

第6問B 三人の会話を聞き取り、要点をつかんだり、考えの根拠となる図表を選択したりする問題。会話を重ねる中で、新しいものの見方や意見が自然に変容していく様が見える質の高い議論であった。会話では根拠を示しながら、論理的、建設的な意見のやり取りが表現されていた。問37については、スマートフォンの使用というテーマから派生する別の観点や問題点等が図として

提示され、多面的・多角的にものごとを考察することが求められる探究学習の参考となる。

5 ま と め（総括的な評価）

追・再試験である本テストは、内容・範囲、分量・程度、表現・形式の各観点において、本試験との大きな差はなく、いずれの受験者にとっても公平なテストとなっている。

本テストは、実際のコミュニケーション場面に即した文脈の中で、日常的な話題や社会的な話題など、様々な題材から構成された内容であった。各大問を見ると、多様なコミュニケーション場面で展開される発話内容が設定されている。音声面では、アメリカ英語やイギリス英語に加え、英語を母語としない話者の発話も含まれている。多様な価値観や文化的背景を持つ国・地域の人々と対話することが想定されるグローバル社会を見据えたリスニング試験であると言える。また、問題の特徴としては、必要な情報を聞き取って答える知識・技能を問う問題に加え、まとまりのある内容の話を聞き取って、概要や要点を捉えるなど、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる内容がバランス良く出題されている。

さて、今年度は、平成30年告示の学習指導要領に基づく教育課程の下で実施される初めての試験である。学習指導要領では、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するため、言語活動の充実や4技能5領域をバランス良く育成することなどが目標として示されているが、本テストはこうした趣旨を踏まえて各問題が作成されていることに注目したい。会話の目的や場面、状況などを踏まえながら発話内容の情報を手掛かりに話者の真意について気付きを得ながら対話を行う、実際のコミュニケーションの文脈が十分に意識された発話と設問の工夫が、各大問で見られた。また、学習指導要領で重要視されている、教科横断的な視点に立った指導や協働的な学びという視点が反映された問題も多く設定されていた。

本テストの問題内容を踏まえると、高等学校等における今後の英語指導は、思考力・判断力・表現力等の向上を目指した授業改善を推進することが一層期待される。日頃の授業においては、英語で発話された情報を聞き取り、単に理解するだけではなく、発話の目的・場面・状況などを踏まえて話の大意を把握する学習や、社会的な話題について自ら調べたことをグラフなどのデータを活用しながら発表したりする学習を、積極的に行うことが必要になるだろう。読んだり、聞いたりしたことを基に自らの考えを述べたり、互いに意見を伝え合ったりするような豊かなコミュニケーション活動を通じ、主体的・対話的で深い学びを実現する指導を充実させたい。

次年度以降も現在のような問題作成方針に基づいた内容が望ましいと考える一方で、幾つかの課題も見られた。問題の中には、発話内容を正確に聞き取れても、内容の構造や情報整理が比較的複雑なものや、選択問題の言い換えの語彙が受験者一般になじみがないと思われるものがあった。この点については、難易度のばらつきとの整合性を図りつつ、注意深い検討を望むものである。また、インプットした語彙や表現、内容を基にアウトプットへ進む自然なコミュニケーションの流れを踏まえ、聞き取った内容から気付きを得て、考えを提案する発話を選択するなどの問題形式の工夫も期待したい。

グローバル化の進展やAI技術の発展に伴い、情報社会が大きく変化する中で、受験者が日々の生活で触れる情報の量や質は変化している。多様なものの見方・考え方や論理的・客観的に分析し、ものごとの本質を見極める力は今後一層必要になるだろう。こうした社会の変化を踏まえ、本テストにおいては、受験者が身に付けた知識を結集させながら解答する問題や学習過程を意識した問題が多く出題されるなど、外国語の学び方や指導の仕方にメッセージを与える試験であった。今後も、社会や大学で求められる力に対応すべく問題の在り方を研究されることに期待したい。